

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第1回 所沢市公共事業評価委員会
開 催 日 時	平成30年9月28日(金) 午後1時30分から午後3時15分まで
開 催 場 所	市役所高層棟3階 301会議室
出 席 者 の 氏 名	杉崎 和久、櫻田 和子、佐藤 将之、仲 志津江
欠 席 者 の 氏 名	
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 今回の公共事業評価委員会の進め方について (2) 評価対象事業(防災の街づくりを目指す所沢市の下水道(防災・安全))の概要説明 (3) その他

<p>会 議 資 料</p>	<p>資料 1 : 社会資本総合整備計画 (防災・安全) (H25~29) 事後評価書 (案)</p> <p>資料 2 : 社会資本総合整備計画 (防災・安全) (H25~29) 事後評価図面 (案)</p> <p>資料 3 : 社会資本総合整備計画 (防災・安全) (H25~29) 事後評価書説明資料 (案)</p> <p>資料 4 : 用語解説</p> <p>資料 5 : 社会資本総合整備計画 (防災・安全) (H25~29)</p> <p>資料 6 : 社会資本総合整備計画 (防災・安全) (H25~29) 参考図面</p> <p>資料 7 : 社会資本総合整備計画 (H22~26)</p> <p>資料 8 : 社会資本総合整備計画 (H22~26) 参考図面</p> <p>資料 9 : 社会資本総合整備計画 (H22~26) 事後評価書</p> <p>資料 10 : 社会資本総合整備計画 (H22~26) 事後評価図面</p> <p>資料 11 : 社会資本総合整備計画 (H22~26) 事後評価説明資料</p> <p>資料 12 : H27 年度公共事業評価委員会 意見および助言</p> <p>資料 13 : 所沢市下水道ストックマネジメント計画</p>
<p>担 当 部 課 名</p>	<p>下水道整備課主査 小暮 康久</p> <p>下水道整備課主査 井上 直樹</p> <p>下水道整備課技師 石森 章之</p> <p>下水道維持課長 吉田 進一</p> <p>下水道維持課主査 伊藤 真弘</p> <p>下水道維持課主査 並木 孝夫</p> <p>下水道維持課主任 新井 伸二</p> <p>経営企画課長 市川 勝也</p> <p>経営企画課主査 森 真太郎</p> <p>経営企画課主任 木村 啓子</p> <p>経営企画部 経営企画課 電話 : 04-2998-9027</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>市長より委員に対し委嘱状を交付した後、委員長・代理者を選出。その後、委員会の議事録確定方法について承認を得た。</p> <p>委員長には杉崎委員が、代理者には櫻田委員が選出された。会議録の作成は要約方式、確定は事務局案を各委員に配布して承認を得るものとされた。</p> <p>以降、杉崎委員長により議事を進行。</p> <p>（1）今回の公共事業評価委員会の進め方について</p> <p>本年度については、「防災の街づくりを目指す所沢市の下水道（防災・安全）」が審議の対象である。</p> <p>評価の対象は、社会資本総合整備計画に基づき実施した当該事業に対する事後評価の妥当性である。加えて、今後の事業展開に向けた意見や助言もいただきたいと考えている。</p> <p>本日の第1回目では、担当課より事業概要説明および事後評価内容説明を行い、質疑応答や確認をしていただく。</p> <p>次回、改めての確認や議論を経て評価をいただくという全2回開催を予定している。</p> <p>（2）評価対象事業の概要説明（事後評価含む）</p> <p>配布資料に基づき評価対象事業の概要・発現状況、ならびに社会資本総合整備計画事後評価内容について所管課より説明がなされた。</p>

委員	<p>以下、評価・助言に関わる意見や質疑応答。</p> <p>合流式下水道改善率の定義を伺いたい。どのように改善率を算定するのか。</p>
事務局	<p>合流改善事業の対象区域 845ha における改善済み面積をもって改善率を算出している。</p>
委員	<p>“改善”という言葉は抽象的であり、少しでも手を加えた時点で“改善”したことになる。今回の結果は改善率 100%なので全て改善したことになるのだろうが、例えばどのような状況だと 50%になるのか。A 地区と B 地区は改善済みで、C 地区・D 地区は未改善といったエリア的な捉え方のイメージか。</p> <p>そうではなく、質的な“改善”内容の議論が必要だと思う。数字上の上辺の議論ではなく、「質的にマイナスだった部分がプラスになった」というような説明が市民の皆さんに対してできれば、改善率に説得力が生まれる。</p> <p>加えて、この改善率 100%という結果は、全国水準と比較してどうなのか。比較対象のない単独の結果だけでは、どう捉えてよいのか判断が難しい。</p>
委員長	<p>国の基準を満たしたことをもって、改善したということだろうと推察するが、改めて次回委員会の際に改善率の算定に対する考え方を示してほしい。</p>
委員	<p>本事業の事前評価シートが所沢市ホームページに掲載されており、内容を確認したところ「計画の目標が上位計画等と適合している」の項目に“○”とチェックされていた。評価対象となる事業の是非を判断するうえで、下水道事業全体において当該事業がどのように位置付けられるのか、それを理解したうえで判断したい。</p>

	<p>については、例えば所沢市下水道事業経営計画にて挙げている6つの取組の柱のどこに当該事業が位置付けられるのか示していただきたい。それにより、今回の評価自体の意味合いも、市民の皆さんにわかりやすくなると考える。</p>
事務局	<p>次回委員会で改めて上位計画との関係性を示したい。</p>
委員	<p>下水道総合地震対策事業としてマンホール及び管渠について実施したとの説明があったが、定量的指標としてはマンホールの耐震対策実施率のみがピックアップされている。これはなぜか。マンホールを優先したということなのか。そうであれば、優先した理由を示してほしい。</p> <p>併せて、前計画（H22～26）では、管路施設長寿命化対策事業として管路施設の長寿命化対策実施率目標10%を掲げ、実績としては0%だったと記憶している。その後、どうなったのか、前述のマンホールとの関係性も踏まえ、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>重要な幹線121kmを緊急・中期・長期の3つの計画に分けて進め、下水道総合地震対策事業として、緊急分32kmはH21～29年度の計画期間をもって事業終了した。</p> <p>耐震診断を行ったところ、32kmのうち管渠165m、マンホール51ヶ所に耐震性能がないとの結果だった。管渠については延長が短いため2ヶ年で耐震対策を完了したこともあり、マンホールの方を指標とした。</p>
事務局	<p>長寿命化対策については、前社会資本総合整備計画（H22～26）内で下水道長寿命化計画を策定したうえで工事を進める予定であったが、新たに国からストックマネジメントの考え方が示されたことから、下水道ストックマネジメント計画へと引き継ぎ、H31年度より点検・調査、修繕・改築を実施していくこととした。</p>

委員	<p>定量的指標③の耐震診断実施率目標値が 34%だが、100%実施時期をいつと考えているのか。もしくは、そもそも 100%実施する必要はないものなのか。ストックマネジメント計画が既に策定されているので、耐震診断としては 34%の実施率が最大値ということなのか。</p>
事務局	<p>総合整備計画において耐震診断対象としている重要な幹線 121km の管渠と、ストックマネジメント計画で対象としている管渠とでは、性質・考え方に違いがある。耐震診断とは、管そのものの耐震性能をチェックするもので、一方のストックマネジメントは管内の状態をカメラで確認しながらチェックするもの。後者は、管の耐震性能如何に関わらず、一定の年数を経過したら実施するものであり、そういった意味で性質・考え方が異なる。</p> <p>耐震診断は、性能有無を 1 回チェックするだけで結果が出るが、ストックマネジメントは一定年経過ごとに調査をするため持続性が求められる。</p>
委員	<p>調査方法や評価の指標が異なることは理解した。しかし、なぜ目標値を 34%に設定したのかを説明いただきたい。例えば、技術的な問題で時間がかかるため H29 年度末時点では 34%としたとか、取り巻く環境に鑑み全国水準も踏まえると 34%という数字は十分努力したレベルである、など“目標値は 34%が妥当である”と市が判断した考え方を伺いたい。</p> <p>当委員会の評価の仕組み・タイミング上、目標設定段階で委員が関わることはなく、結果の段になって初めて目標と実績とを同時に知ることとなる。しかし、目標値自体の妥当性に納得できなければ、それを達成したということの良し悪しを評価することは難しい。</p> <p>最後に、資料 13 として下水道ストックマネジメント計画が配布されているが、計画の具体的な中身を知りたい。本計画以外に資料として既に作成されているものがあれば共有願いたい。</p>

事務局	<p>実施方針を策定しているので、次回委員会でお示ししたい。</p>
委員長	<p>この分野は、刻々と状況が変化しているため、国の通知・指示が後追いになりがちなので、上位計画に従って事業を実施するという動きがしづらいのだろうとも思う。</p>
委員	<p>下水道ストックマネジメント計画を策定したことで、点検・調査、修繕・改築が実施できるとの説明があったが、なぜ計画の策定がそのような結果をもたらすことになるのか。</p>
事務局	<p>市内の下水道施設を個別に見るのではなく、今後は、一体的な施設として点検・調査等を計画的に行っていくということである。</p> <p>これまでの維持管理は、事故や陥没が起こってから的事後対応的な管理スタイルにならざるを得なかったが、下水道全体をひとつの施設として見るストックマネジメント計画下では、予めリスク評価を行いカメラ調査などを行うことにより、事前保全的な維持管理スタイルになるということである。</p>
委員長	<p>下水道を取り巻く環境など前提情報がないと市民の皆さんに事業の意義を理解いただくのは難しいだろう。何らかの問題や課題があり、それを解決するために事業が計画され、実績がこうなった、という展開の方がわかりやすい。</p>
委員長	<p>(3) その他</p> <p>本委員会の次年度以降の改善ポイントとして、対象事業を取り巻く環境を踏まえた概要説明的なパートないし資料を盛り込んでいただきたい。今回のように、冒頭から評価・実績を示されても、そ</p>

<p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>の成果指標の妥当性が不明な場面がある。概況が示されれば、更にスムーズに議論ができるだろう。</p> <p>次年度以降、対応する。</p> <p>なお、本日いただいた疑問点や確認点は、次回委員会にて回答するか、予めお示しできるものは、適宜全委員へお知らせしたい。また、本日以降、追加の質問や確認要望があれば、10月15日（月）までに事務局まで一報いただきたい。</p> <p>各委員からの追加質問・確認内容は、全委員へも共有いただきたい。</p> <p>（次回委員会は、11月22日（木）9:30～11:30 予定）</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>次回までの ToDo 等まとめ</p>	<p>① 各委員からの以下質問・確認事項について回答する。</p> <p>A. 合流式下水道改善率の算定式は？</p> <p>B. 全国水準との比較における所沢市の合流式下水道改善率はどうか？</p> <p>C. 上位計画における本事業の位置づけは？</p> <p>D. 耐震対策実施率の定量的指標対象をマンホールのみとした理由や考え方は？</p> <p>E. 耐震診断実施率の目標値を 34%とした理由や妥当性は？</p> <p>F. スtockマネジメント計画の具体的な中身がわかる資料は？</p> <p>G. 下水道事業全体を取り巻く環境や課題は？</p> <p>② 追加質問・確認事項があれば、事務局へ10月15日までに連絡する。（①と併せて回答する。）</p>

	③ 追加分の内容は適宜事務局より全委員へ共有する。
--	---------------------------